

第45回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

安全・确实最優先

高品質物流で顧客の信頼に応える



北海道札幌市

株式会社ヤマカ 山加運輸

指導室室長 小森孝雄

当社の基本理念

安全・确实を最優先

- デリケートな生鮮食品物流自覚
- 荷役事故・交通事故防止
- 検品ミス・商品破損・温度ミス防止

➡ 高品質物流を目指す。

安全衛生管理体制

●安全対策への取組み(指導体制強化)

管 理 者

統括(安全管理者)(運行管理者)

安全衛生委員会

・荷役

現場管理者(安全管理者)

監督・指導

安全指導(補助)者

安全啓発と指導

安全性向上委員会(長・代行)

現場の安全性提案

輸送

現場管理者

監督・指導

運行管理者

運行管理・指導

小集団活動

自主目標と達成努力

補完

指 導 室

安全対策支援

荷役事故防止策の現場浸透

会社方針として通達

従来型

労働衛生委員会に加え
・安全性向上委員会
適時開催

現場の意見吸
い上げに、長
(代行)を指定

・朝礼等の
安全指導

・安全管理者に加え
指導(補助)者指定

指導簿備付け

・現場責任
者の指導

・マニュアル改善・簡明
化
・リフト作業M・荷扱い作業
M・移動ラック作業M・配送M

マニュアルを
一部唱和、指
導にも活用

・マニュアル・
安全誌活用

指導室の役割

安全支援システム

安全の企画・立案・指導

共通

- 危機管理諸対策
- 通達・安全マニュアル等策定
- セーフティ山加・安全・統計資料作成
- 関係団体等会議・安全運動参加
- 安全対策会議開催(社内・グループ等)

荷役

- リフト・リフター等の安全指導
- 各現場の安全サポート

輸送

- 安全マネージメント・Gマーク関係
- 運転者の適性診断
- センター・事業所の安全サポート
- 運転者の同乗指導
- 事故惹起者の同乗指導

荷役安全対策

荷役リスクの浮き出し

荷役

荷物落下・倒壊・車後部扉開放時の荷倒れ

体力と荷重軽視の腰痛・凍結スリップ転倒

荷台から転落・飛降りて受傷、停車両自走

ラック（移動）の飛降り・転落・挟まれ

ツルテナー・台車の倒れ・衝突等

リフト

リフトとの衝突・挟まれ

リフトの転倒・転落

リフトからの落下・荷の倒壊

フォークリフト安全作業マニュアル

- 作業前リフト点検を行い、記録する。
- 正しい服装・安全帽・安全靴を着用する。
- パレットの偏荷重や倒壊防止の確認を徹底する。
- リフト通行路や作業範囲に、作業者等を入れない。
- リフト走行は原則バック、急発進・急旋回禁止、人や構造物（上部）接近時は、必ず徐行し確認する。
- フォークやマスト上げ走行やフォークの荷押し禁止、適正なフォーク操作で、荷の落下や倒壊を防止する。
- 急ぎでも焦らずに、安全・確実第一と復唱する。
- 職場の整理・整頓・清潔・清掃は率先して行う。

リフト運行と作業者分離



移動式ラック作業M

● 移動式ラック操作時の厳守事項



- ①移動式ラックの操作は、通路内（棚）にいる作業員を出し、通路・レール上の荷物を移動し、ラックのはみ出し荷物を修正してから操作すること。

作業中の表示

移動式ラック作業M

● 移動式ラック操作時の厳守事項



- ② 移動式ラック操作時に、進入検出器に作業中の表示がかぶされている時には、通路・ラック棚内に作業者等がいる可能性があり、作業者の確認を徹底し作業者を出し作業中の表示を元に戻してから操作すること。

移動式ラック作業M

● ラック通路内に入る際の厳守事項



- ① 進入検出器に作業中の表示をかぶせラック操作をロック状態にし、自分の安全を確保してから通路に入ること。

作業中の表示は磁石板に作業中の表示を両面に貼っている。

移動式ラック作業M

- 作業者等が通路内に入る際の厳守事項

進入検出器



進入検出反射板



移動式ラック安全作業マニュアル

●移動式ラック操作時の厳守事項

- ①通路内等の作業者を出し、通路・レール上の荷物を移動し、ラックのはみ出し荷物を修正してから操作する。
- ②進入検出器に作業中の表示がかぶされている時は、通路等を確認し作業者を出し、作業中の表示を元に戻して操作する。

●作業者等が通路内に入る際の厳守事項

- ①作業者は、進入検出器に作業中表示をかぶせ、ラック操作をロックし通路に入る。
- ②通路から出る時は、必ず、作業中の表示を元に戻す。

●共通厳守事項

- ①ラックの急停止は、非常ボタンか操作ボタンを押す。動いているラック下部横センサーを塞ぐと急停止（荷倒壊防止）しないが数10cm自走停止する等ラックの操作要領を把握する。
- ②ラックの登り、飛び降り、転落・足等損傷の危険があり禁止
- ③停止検出器の赤外線直視（のぞき）は禁止
- ④本マニュアルは、ラック業者マニュアル同様に厳守する。

荷扱い時の労働災害防止マニュアル

1 人力積み降し作業

- ・ 不安全動作の災害、無理動作の腰痛防止
- ・ 重量物持ち下ろしは、デリック型よりひざ型作業姿勢
- ・ 頭上作業、後ろ向き動作は落下危険で注意
- ・ 重量物は数人か台車や荷役機械で運搬

2 トラック積降し作業

- ・ 荷台へは昇降用足かけで、飛び乗り降り・滑る履物禁止
- ・ 荷物端で背中を荷台外側に向けた作業は転落危険あり
- ・ 偏荷重や過積載等の荷崩れ防止で、積み降ろす。
- ・ 荷扱で荷台の隙間は、積荷中央部・最後部にラッシングベルト等で固定し、荷崩れ等破損防止。
- ・ 後部扉の開放時は、一度に開けず積荷落下を予防

3 ツループテナーの作業

- ・積載物落下防止、移動時の前方確認と段差の転倒に注意
- ・重量物取扱時や床面傾斜の危険時は複数人で取扱い
- ・テナーロック、ラッシングベルト、バーで横倒れ防止

4 走行中荷崩れ防止

- ・慎重運転と荷物積付け、固縛、ラッシングベルト・バーを活用、荷崩原因の路面振動・衝撃や急制動旋回に注意
- ・カートン同士の摩擦係数は小さく、途中に板をかませ固縛し横滑り防止（S字カーブ等遠心力で荷崩れおそれ）
- ・荷崩れは、不定形貨物の形状と積み付け方法の適否のほか、外装箱強度不足での下段貨物変形の原因が多い

輸送安全対策

平成21年輸送の安全に係る事項

安全マネジメントに係る公表事項

平成21年・輸送の安全に係る事項

安全マネジメントに係る公表事項

◆ 輸送の安全に関する基本的な方針

- 1 社長は、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社員に輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させ、また、社内において輸送の安全の主導的な役割を果たす。
- 2 安全マネジメントを確実に実施し、全社員が一丸となって業務を遂行することにより絶えず輸送の安全の向上を図る。
- 3 輸送の安全に関する情報について、積極的に公表する。

◆ 輸送の安全に関する目標

平成 21 年 ・ 年 間 目 標

「各職場での交通事故・違反ゼロの達成」

安全性優良事業所認定証

認定証番号
1900435 (1)



安全性優良事業所認定証

事業所名：株式会社ヤマカ山加運輸
西営業所

住 所：北海道札幌市西区発寒13条
14丁目1079-14

「平成19年度貨物自動車運送事業安全性評価事業」において、貨物自動車運送事業法に規定する輸送の安全確保等に関する下記事項について評価した結果「安全性優良事業所」として認定したことを証します。

評価事項 I. 安全性に対する法令の遵守状況
II. 事故や違反の状況
III. 安全性に対する取組の積極性

有効期間 平成20年1月1日～平成22年12月31日
(3年間)

平成19年12月20日

全国貨物自動車運送適正化事業実施機関
社団法人 全日本トラック協会

会 長 中西 英一郎



当社の交通事故防止の取り組み

コミュニケーション
ベター&リフォーム
モチベーション

各センター
スタッフ

運行
管理者

配送
員

課題(問題点)
効果的推進項目
達成状況の検証
新規課題の策定

小集団活動

センター長

配送所長

統括運行管理者

リーダー

リーダー兼務

サブリーダー

配送
員

配送
員

配送
員

配送
員

対話重視し、改善改革・共通意識高揚

- 安全運転声掛け
- 点呼時の免許証確認・睡眠・アルコールチェック
- 朝礼時の体操
- 安全目標等唱和
- ペア始業点検

- 配送終了時報告と各種指導
- 車載端末による走行指導……………
- 運転者事故防止ポイント、覚低運転禁止、確認癖資料を配布

- 安全ミーティング。
- 小集団活動、

- 同乗指導(追跡指導)

今後の安全対策の一考察

1 小集団活動の活発化

- ① 運転者自身が考え、安全レベル向上し実践
(確認、運転操作判断全て運転者)
- ② 小集団コミュニケーションでレベルアップ
(安全意識・確認・運転操作の差異を埋める)
- ③ 仕事合間に安全小テーマを話し合う積み重ね
- ④ 健全なリーダー(サブ)のやる気と情熱が要
- ⑤ 運転者自身に跳ね返る充実感と適正評価

2 同乗指導(個別指導)強化

- ① 同乗は、運転・配送チェックを通じ、単独で頑張っている運転者を励まし話し合う機会
- ② 事故を起こさせない熱意、何をチェックし・聞き取りし、どんなアドバイスが最善か真剣勝負
- ③ 運転を客観的に観察し、良好点は褒め、危険類似行為は、ずばりアドバイス
- ④ 運転者の安全目標をともに考え、すっきりと気分良く次につなげて終了
- ⑤ 指導者自身が自分を磨き、謙虚に運転者と向き合うことが基本

3 確認癖の定着化（事故主因は確認不足）

① 事故の悲惨や結末から確認癖を自覚

② 確認し易い環境

（窓等清掃、ミラー・シート角度調整）

③ 確認を失念し易い時の反復確認

- 急ぎ・焦り・慌て・ホット安心・ボヤット
- 配送帰路の眠気と惰性は前方不注視招き危険
- だろろう不確認
- 反射的車線変更時や停止時の左右方向変換時の不確認
- 高床故の直近左右不確認
- オーバーハング忘れの巻込み不確認

④ 事故多発場所の減速と反復確認

- ・ 交差点は信号無視に用心
- ・ 停止線手前で停止確認
- ・ 郊外や高速カーブの手前減速（深夜未明危険）
- ・ 市街地の人・車飛び出し用心
- ・ 高速道は惰性眠気の前方不確認危険
- ・ 初冬時のカーブ・トンネル出入り口・橋の上・高速道の日陰はブラックアイス危険で
- ・ 排気ブレーキはスピンで危険
- ・ 駐車場出入りは歩道手前で一停確認
- ・ バック時は室内消音・ハザード注意喚起・窓開け耳と目視で確認・箱上方にも注意

大事故を起こさないポイント

1 運転は確認の真剣勝負

情性・眠気は論外、事故は我身の破滅と自覚

2 深夜未明の守護神は事前の睡眠確保

3 何事もあせらず①に確認②にも確認

4 情性・眠気運転は帰路の気抜き危険

5 確認癖は平素の積み重ね

懲りずに起きる交差点（一停）・バック・駐車
場・郊外や高速道のカーブ・市街地の人・自転
車・車の飛び出し事故